



琉通ロジスティクス
総合研究所

2023年度

第二期

第3回ロジスティクス人材育成研修報告書

日 時:2024年3月13日(水曜日)

会 場:アイムユニバースてだこホール

目次

- 3、募集チラシ・・・・・・・・・・ 3P
- 4、プログラム・・・・・・・・・・ 4P
- 5、活動報告書・・・・・・・・・・ 5P～

募集チラシ



琉通ロジスティクス総合研究所

本講義のみ
ZOOM配信！

Zoom配信終了後にアンケートへ回答された方は講義資料をダウンロードいただけます

緊急講義！！決定！

琉通総研×JPIC

日時：3月13日(水) 9:35～

Zoom無料配信！この機会に是非ご聴講ください

一般社団法人 琉通総研の人材育成事業で

森 隆行氏

流通科学大学名誉教授

兼フィジカルインターネットセンター理事長を招いて



物流の2024年問題の最前線を聞いてみる

琉通ロジスティクス人材育成

本研修ではロジスティクスの問題・課題を事例から捉え、改善策を見える化しKPI目標を立て体系的に進める方法を学んだ後にプレゼンテーション・ディベートを行うことにより提案力・発言力を養い、ロジスティクス業界の次世代を担うリーダーの育成を目的としています。

物流2024年問題

物流・運送業界の2024年問題とは、働き方改革法案によりドライバーの労働時間に上限が課されることで生じる問題の総称のことです。具体的には、ドライバーの時間外労働時間が年間960時間に制限されることで、一人当たりの走行距離が短くなり、長距離でモノが運べなくなると懸念されています。こうした中、物流会社は深刻なドライバー不足に陥っているほか、輸配送ロットサイズの縮小や時間指定配達増加により、トラックの積載率も減少しています。今回は、こうした状況を打開する手段の1つとして注目を集めている「フィジカルインターネット」について解説します。

(フィジカルインターネットとは、複数の企業が保有する倉庫やトラックをシェアリングし、物資を効率的に輸送しようとする、新しい「物流システム」の考え方を指します)

聴講方法

下記のZoomリンクまたは右記のQRコードから聴講いただけます。

URL：<https://x.gd/cdprR>

※Zoom画面の表示名は“会社名”もしくは“お名前”をご入力ください



主催：一般社団法人 琉通ロジスティクス総合研究所
担当：事務局
E-mail：info@rri.or.jp

プログラム

時 間		所要 時間	プログラム	担 当
09:25	～ 09:25	5	1、オープニングアナウンス ①会場の利用について ②プログラム説明	事務局
09:25	～ 09:30	5	2、開会あいさつ	兼次理事
09:30	～ 11:30	120	3、第3回テーマ「フィジカルインターネット」	森 教授
09:30	～ 11:00	90	講義	
11:00	～ 11:30	30	質問タイム	各チーム
11:30	～ 14:18	168	4、グループワーク	
11:30	～ 11:33	3	・グループワークの進め方の説明（質問、資料作成、休憩）	事務局
11:33	～ 14:18	165	・ワークシートの作成 ・お昼（好きな時間にお召し上がりください） ※14:23までに必ずお昼をとってください	各チーム
ワークシート提出時間 ※14:23				各チーム
14:18	～ 14:53	35	・作戦タイム（質疑応答およびプレゼン対応）	各チーム
14:53	～ 16:00	67	5、プレゼンテーション&質疑応答	
14:53	～ 14:56	3	・ルール説明	事務局
14:56	～ 15:12	16	・Aチームプレゼンテーション …10分 ・質疑応答（B,C,Dチームから） …6分	Aチーム
15:12	～ 15:28	16	・Bチームプレゼンテーション …10分 ・質疑応答（A,C,Dチームから） …6分	Bチーム
15:28	～ 15:44	16	・Cチームプレゼンテーション …10分 ・質疑応答（A,B,Dチームから） …6分	Cチーム
15:44	～ 16:00	16	・Dチームプレゼンテーション …10分 ・質疑応答（A,B,Cチームから） …6分	Dチーム
16:00	～ 16:25	25	6、総評及び総括	雨宮理事
16:25	～		クロージングアナウンス	事務局

活動報告

2023年度 第二期 第3回ロジスティクス人材育成研修 活動報告書			
日付	2024年 3月13日（水） 9:30-17:00		
会場	アイム・ユニバースてだこホール マルチメディア室（浦添市仲間1丁目9-3）		
研修目的	県内ロジスティクス業界の次世代を担うリーダーの育成		
講師	流通科学大学 名誉教授 森 隆行		
受講者 10企業 13名 (敬称略)	琉球倉庫運輸株式会社	営業部	大城 寿樹
	オリオンビール株式会社	SCM部	入稻福 歩
	マルエー物流株式会社	営業部	課長 城間 大輔
	株式会社琉球通運航空	経営企画室	室長 仲里 司
	琉球通運株式会社	国際物流部	主任 与那原 陽子
		営業部	新垣 颯
		物流センター事業部	下地 静香
		営業部	石川 勇人
	株式会社産経運輸	営業	部長 兼城 忍
	株式会社沖縄経営システム	企画開発室	執行役員 屋比久 光
	琉球物流株式会社	琉球物流国際部	主任 フィールド・ケイス・竜
	琉球物流運輸株式会社	運輸部	課長 鉢嶺 宗志武
トヨタコネクテッド株式会社	新事業推進室	新事業推進G 澤田 正幸	
理事 6名	琉通ロジスティクス総合研究所	代表理事	新垣 直人
		理事	兼次 清勝
			宮城 聡
			下地 康彦
			雨宮 路男
		監査	砂川 孝史
聴講者会場 2名	内閣府	課長補佐	宮平 勉
			仲本 兼也
Zoom聴講			33 名
研修テーマ	フィジカル・インターネットの沖縄展開について		
研修内容	聴講・質疑応答含め2時間15分		
	3名3チーム、4名1チームの全4チームによるグループワーク193分、プレゼンテーション（各チーム10分）		

開会あいさつ 兼次 清勝 理事

皆さんは「フィジカルインターネット」について知っていたでしょうか？

今回の研修を行うにあたって、「フィジカルインターネット」について調べてみた、簡単にいうとお互いの施設を使った「共同輸送」ということです。

昨今のコロナ禍の影響により貨物数の増加が懸念されていたことから、こういった取り組みが注目されているのではないかと考えています。

なので、研修3回目となる今日のテーマ「フィジカルインターネット」を学び、今後に活かしていければと思っています。



講義 流通科学大学 名誉教授 森 隆行先生

フィジカルインターネットが沖縄の物流のどのような助けになるのか？
また、日本全体の物流課題をどう解決していくのか？

コロナが始まった 2020 年頃を起点に社会全体の価値観の変化が加速したことで、顧客、荷主のニーズが変化し、FlexPort のデジタルフォワーダーをはじめ、物流業界においても「シームレス」化が注目されています。

また、経営においてはデジタル化と環境問題をおろそかにすると経営が成り立たない時代になってくると考えられます。

なぜかというと、2015 年の COP 2 1（第 21 回国連気候変動枠組条約締約国会議）でパリ協定が採択されたことにより、各企業が脱炭素化に向けた取り組みを始め、大手荷主は物流企業に対してゼロ・エミッションやカーボンニュートラルの要求を行っている為である。

なので、気候変動問題に対して他人事ととらえていると今後の経営において、大きなリスクとなってしまう可能性になります。

さらに、日本は「2024 年問題」という働き手が減少し、配送できる物量の減少が懸念されています。それを解決するために、国は物流革新緊急パッケージ（物流業務の総合化及び効率化の促進に関する法律および貨物自動車運送事業法の一部を改正する法律案）今年の 2 月に閣議決定した。

この法案が施行されると国が定めた特定事業者は CLO（物流統括責任者）の配置が義務付けられます。

CLO はサプライチェーン全体を見て、これからの時代に求められる「安定輸送・高品質付加価値輸送サービス」の実現を考える必要があります。

そこで、フィジカルインターネットという言葉が注目されています。

各荷主がトラックを 1 台占有していると、積載率は上がらないが、モジュール式コンテナを使用し、同じ拠点への積み荷を混載することで、使用するトラックの台数を減らすことができ、環境への配慮にもなり、働き手の減少が騒がれる 2024 年問題に対する対策となっていきます。

沖縄は今から備える必要があります、

逼迫していないとしても無駄を省いて効率化し、持続可能な物流を作る為にフィジカルインターネットが役に立つと考えています。

さらに、コスト削減だけでなく、環境負荷の軽減、ドライバーや物流現場で働く人達の給与、労働環境の改善を図り、物流は成長産業であるという考えにしていきたい。

そのためにも、沖縄でフィジカルインターネット実現会議というのを立ち上げて、各社の連携をとり沖縄の物流効率化というものを図っていくということもできるのではないかと考えている。



グループワーク:1チーム4名で改善施策を決め、実行ワークシートを作成します



10分間のプレゼンテーションと質疑応答をします





総評及び総括 雨宮 路男 理事

ロジスティクスはすべて訓練、慣れです。

学んでも実践しなくては意味がない、今回はそれをシートに書いてもらった、時間制限で書いてもらった。時間内でやりきることが重要。やりきるというのも一人ではなくチームワークでやりきる。さらに、そうなってくると役割分担が必要になってくる。

「沖縄の地理的与件」というのを日頃どのように考えられているのか？

発荷主と着荷主の間にいるのが物流である。なので、ロジスティクスを物流が主体でやりたいと考えている。

なぜかというと、データを持てるのは物流だから。メーカーは生産したものの流れが分からなかったもので、自社で物流の子会社を作ったがコストがかかりすぎたので、手放している。しかし、物流は在庫の情報が分かるのでそのデータを持っているのが強みなのでそういったデータをわかるようにしっかり勉強してほしいです。

日頃から物事に問題点を考える視点を持って、今回の研修で学んだことを皆さんの現場の改善に取り入れて欲しい。



閉会あいさつ 新垣 直人 代表理事

疏通総研の達成とは、研修後に皆さんが会社に戻って、社内の方から研修を受けたことで動きが変わった（主体的になった等）の変化を感じてもらえることです。

物流は受けの仕事が多かったと思うが、今回の研修のような訓練をして、物流企業が主導で提案をして行く「頭脳集団」を作るということを疏通総研は目指しています。是非、研修で学んだプレゼンテーション、ディベート、質問をお客様、部下、同僚、上司へ実践で活用してください。今後、懇親会などを通じて、横の連携というのを深めていきましょう。

